

科目名	環境工学 II Environmental Engineering II			担当教員	多川 正		
学 年	4年	学 期	通年	履修条件	選択	単位数	2
分 野	専門	授業形式	講義	科目番号	15134031	単位区分	履修単位
学習目標	都市生活の上で必要不可欠な下水の排除・処理および廃棄物処理などの都市環境保全に必要な技術を理解し、環境を保全、修復、管理するための基本的な考え方を習得する。						
進め方	授業内容の理解を深めるために、テキストを配布して教科書の内容を補足説明する。 講義主体であるが、適宜小実験を見せるので、理解を深める一助にしてほしい。 適宜、演習課題（計算等）を行い、化学、単位計算等の理解を深める。						
学習内容	学習項目（時間数）			学習到達目標			
	1. 下水道 (28) (1)授業ガイダンス, 成績評価 (2)下水道の歴史, 目的, 現況 (3)下水道の計画, 施設 (4)下水の処理方法 ----- [前期中間試験] (2)			・下水道設置の目的と現状を説明できる。 ・下水道を構成する施設を説明できる。 ・標準的な下水処理プロセスを図示説明できる。 (A-2)			
	(5)汚泥処理 (6)汚泥廃棄物処理, 資源化 (7)高度処理 前期末試験 試験返却(1)			・汚泥の処理方法と資源化の必要性について説明できる。 ・廃棄物の種類について説明できる。 ・高度処理の必要性が説明できる。 (A-2)			
	2. 廃棄物処理 (28) (1)廃棄物の歴史と現状 (2)物質フロー (3)循環型社会 ----- [後期中間試験] (2)			・廃棄物の発生源と現状を理解している。 ・循環型社会について説明できる。 (A-2)			
	(4)廃棄物の収集・処理・処分 (5)廃棄物の減量化・再資源化 (6)諸外国・途上国における廃棄物問題 後期末試験 試験返却(1)			・廃棄物の収集・処理・処分を理解している。 ・廃棄物の減量化・再資源化を理解している。 (A-2)			
	評価方法	4回の試験結果を各々50%ずつ評価に入れて評価する。試験結果は60点以上を合格とする。 学習項目の全体評価への重みは、1～2ともに同等とする。 定期試験では学年に関係なく、それまで学習したすべての内容（例えば、化学にて1,2年に学習した内容、環境原論、環境工学Iで学習した内容など）を試験範囲とする。					
履修要件	特になし						
関連科目	環境原論（2年）→環境工学I（3年）→環境工学II（4年）→環境アセスメント（5年）						
教 材	教科書：住友 恒ら，新版 環境工学（理工図書），配布テキスト その他の参考資料は適宜テキストにて紹介する						
備 考	引用・参考図書を配布テキストに併記してありますので、自主的に学習に取り組む、自学自習の姿勢を希望します。また、授業に関連する参考書、図書、DVD等の貸し出しを随時行っています。 毎年10月に実施される、公害防止管理者試験（国家資格）にも積極的に取り組んで欲しい。 ・質問等はオフィスアワーに限らず、随時可（事前に連絡があるとより確実な対応ができます） 出張・外出等の予定は教員室前のホワイトボードの予定表を参考にしてください ・レポート類の提出先、教員室の場所：建設環境工学科棟2階 環境工学実験室内 ・連絡先：087-869-3928, E-mail tagawa@t.kagawa-nct.ac.jp						